

## 平安宮の赤い色

<http://www.kyoto-arc.or.jp>

(財)京都市埋蔵文化財研究所・京都市考古資料館



平安宮朱雀門 『伴大納言絵巻』出光美術館蔵 平安時代後期

はじめに 白い壁やベンガラ格子など、人は色に建物のイメージを重ねます。緑の瓦や朱の柱に彩られた平安神宮を見て、かつての平安宮の建物に思いを馳せる人も多いでしょう。確かに平安宮の建物に赤い色が塗られた事は、『伴大納言絵巻』などからも想像できますが、その「赤」は、本当に絵のような鮮やかな「朱色」だったのでしょうか。平安時代に建てられた建物に塗られている色を調査すれば分かりそうですが、残念ながら建物の塗装は、当時のまま残っているわけではありません。そこで注目したのが、出土瓦です。

瓦に残された赤い色 瓦葺の建物で、まれに木部と接した軒平瓦に建物と同じ色が付いていることがあります。平安時代前期の平安宮の発掘調査でも、決して多くはありませんが、赤い色が付着した瓦が出土しています。この貴重な

赤い色を理化学的に詳しく調べることで当時の建物の色の復元が可能になります。調査した出土瓦は全部で7点あり、平安宮朝堂院跡から緑釉瓦とともに5点、民部省築地跡からの2点です。その型式から、前者は当時京都で焼かれたもので、後者は平城京から移された瓦とわかっています。

赤い色を調べる 建物に塗る赤い顔料には、ベンガラ\*<sup>1</sup>と朱\*<sup>2</sup>、そして鉛丹\*<sup>3</sup>があります。今回の瓦の赤い色は、いずれもベンガラでした。さらに、ナノテクノロジーの世界の話ですが、ベンガラ粒子の形を高倍率電子顕微鏡の50,000倍で観察すると、同じベン

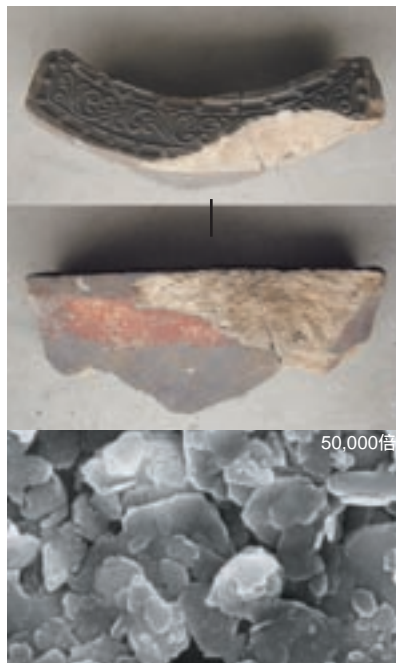
ガラでも原材料や製法、そして赤い色味が異なるいくつかの種類にわけられます。これまでの調査では各地の古代寺院や平城京の建物には、「丹土ベンガラ」が広く用いられていました。一方、中・近世以降のベンガラの多くはきれいな球状微粒子の「人造ベンガラ」です。今回、朝堂院跡出土の瓦に付着した赤色粒子を調べると、「赤土ベンガラ」でした。これは、『延喜式』(927年)や『政事要略 雑公文事』(939年)に、平安宮建物の造営・補修に際して用いたと記録がある「赤土」に相当します。一方、民部省築地跡出土瓦の顔料粒子は、「パイプ状ベンガラ」で



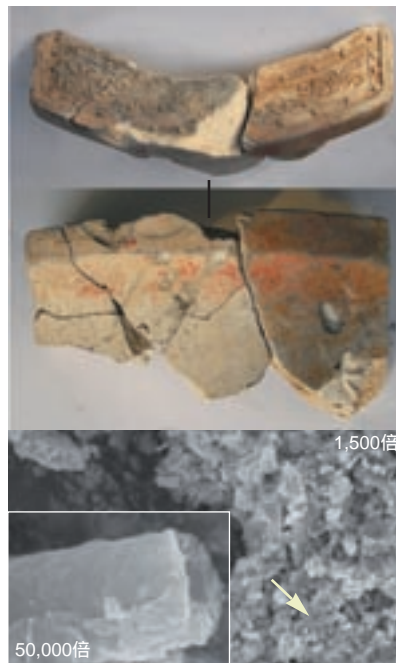
平安神宮



薬師寺東塔の軒



朝堂院跡出土の軒平瓦(上)  
赤土ベンガラ(下)



朝堂院跡出土の軒平瓦(上)  
赤土ベンガラに混入したパイプ状ベンガラ(下・左)



民部省跡出土の軒平瓦(上)  
パイプ状ベンガラ(下)

した。この瓦は奈良時代のもので、この赤い色が平安時代前期の民部省のものなのか、長岡京または平城京のものなのか、現時点ではわかりません。しかし朝堂院跡出土瓦の「赤土ベンガラ」をさらに注意深く観察すると、その中にわずかですが「パイプ状ベンガラ」が混入していました。これは、意図的に二種類のベンガラを混ぜて使用したというより、付近の建物に塗ろうとした「パイプ状ベンガラ」が何らかの理由で「赤土ベンガラ」に混入したのではないかと推定されます。平安時代前期頃の平安宮の建物の赤い塗装には、建物の性格や塗装箇所の違いに応じて異なる二種類のベンガラを使い分けていた可能性もあるのです。

まとめ 現代のみならず平安時代の人々は、鮮やかな赤い色を発色する希少で高価な朱を建物塗装に用いることに強い憧れを持っていたようです。『池亭記』(982年)

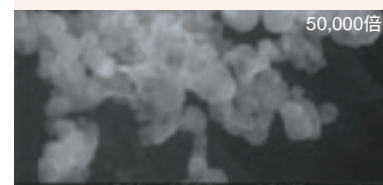
は、右京に存在した西宮第の様子を象徴的に「華堂朱戸」、『春記』(1050年)は、藤原道長が建立した法成寺の御堂を「瑠璃の瓦に朱砂塗りの南扉」と表現しています。『伴大納言絵巻』に描かれた朱雀門の柱や扉の赤い色も、基本的には朱で描かれていることが、近年の東京文化財研究所の科学分析で明らかになりました。また、平安時代後期頃の平等院鳳凰堂の場合、確かに中堂の四面扉には朱が塗られていましたが、翼楼の部材などの多くは量産に向く「丹土ベンガラ」だったようです。

今回調査した赤い色は、残念ながら鮮やかさでは朱には及びませんが、当時のベンガラの中では最も赤い色が良好な「赤土ベンガラ」と「パイプ状ベンガラ」でした。ここからは、権威の象徴でもある平安宮の建物の色にこだわった人々の理想と現実の姿を垣間みることができます。(北野 信彦)

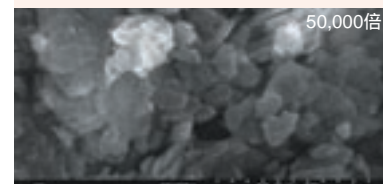
- \*1 ベンガラ：酸化鉄が主成分
- \*2 朱：天然辰砂・水銀が主成分
- \*3 鉛丹：酸化鉛が主成分



人造ベンガラ：きれいな球状微粒子をもち、中・近世以降にみられる。



丹土ベンガラ：黄土を焼いたため少し赤の鮮明さには欠けるが量産可能。



赤土ベンガラ：材料学的に安定な赤鉄鉱を磨り潰したもの。細かい扁平な六角板状又は魚鱗状の形で、紫赤色系の赤色。



パイプ状ベンガラ：鉄分の純度が高い中円筒状の鉄バクテリアを原材料とした真紅がかった良好な赤色。